

一年

いろいろなふね

第一次指導

○ お勉強の用意をします。鉛筆一本を出したら、本の中にはさんで下さい。そして、筆箱は、机の中にしまいます。

(子どもの様子を見ながら。)

○ 準備が早いですね。そしてね、ノートの上はこの本を重ねて、自分のおへその前に置きます。どうぞ。

(子ども達、さっと準備をする。)

○ それでは、目を見せて下さい。いい目だね。今日は、一組と二組と三組のお友達が一緒に勉強するのね。いつもの三倍の力がでると思います。アンパンマンより強くなると思うよ。がんばりましょう。

○ それでは、始まりのあいさつをしましょう。元気よくあいさつをしましょうね。おはようございます。

おはようございます。

一よむ

○ 今日は、一時間、先生とこのお話をお勉強します。おうちでこのお話を読んでみた人、手を挙げてごらん下さい。

(十六人くらいの挙手。)

○ おお、すばらしい一年生ですね。おろして下さい。今日は、

いいお勉強ができそうです。

○ 順番に読んでもらおうと思います。読むところに番号を打ちます。鉛筆を持って、本を開いてごらん。いいですか。最初の所、ふねにはの上の所に、算数の時に習った1という字を書きなさい。

(黒板に1を書く。以下ページを見せながら、区画の番号を2く6までゆつくり書く。)

〈区画〉

- | | | | |
|---|--------|-----|----------|
| 1 | 二十四ページ | 一行目 | ふねには |
| 2 | 二十四ページ | 五行目 | きやくせんは |
| 3 | 二十六ページ | 一行目 | フェリーボートは |
| 4 | 二十七ページ | 一行目 | ぎよせんは |
| 5 | 二十八ページ | 一行目 | しょうぼうていは |
| 6 | 二十八ページ | 九行目 | いろいろな |

(一人ひとりの番号の確認をする。)

○ とつても仕事が早くて、上手な一年生ですね。六年生みたいです。びつくりしました。さあ、そうしたら、順番に読んでもらいます。今日は、後ろのあなたから。

(二人ひとり読む確認をする。)

○ 今日は、六人の人に読んでもらいます。今、おねがいた人、読む時は、立って、本をしっかり持って、大きな声で、ゆつくりはつきり読みましょう。今日は、体育館なので、後ろの先生に声がしっかり届くようにがんばって読みましょう。

○ それから、聞く人は、本をしっかり持って、さっきのいい目で、いい耳で、しっかり読んでいきます。それでは、聞く人、

用意して下さい。

(本を開いていない子には確認をする。)

○ さあ、ゆっくり、はっきり大きな声でお願いします。

(六人立って読む。読み声は小さいが、ゆっくり読む。)

○ 本を静かに下ろしましょう。

(子ども達、さっと本を置く。手も机の下に。)

○ 仕事が早いね。本を置いた後に、手がすつと下に入りましたね。これは、勉強がよくできるようになるコツなんです。どの人もよく分かるように、読んでくれました。

二 とく

○ 何というお話でしたか。

いろいろなふねです。

(板書 いろいろなふね)

(子ども達は、板書をじっと見ている。)

○ いろいろなふねというお話です。ふねは、どこでお仕事をしますか。あなたどうぞ。

海です。

○ そうね。海でお仕事をします。いろいろなつてあるから、一つではないよね。たくさん仲間がいます。みんなが知っているふねはどんなのがありますか。

(挙手なし)

○ 松島湾にいませんか。ふね、見たことない？
乗ったことあるけど。

○ どんなふねに乗ったの。

名前は分かりません。

○ そう。名前が分からないけど、乗ったことはあるのね。

先生が松島湾に行ってみると、たくさんふねがありました。

小さいふねがありました。遊覧船もあったのかな。乗ってみたいなと思いました。乗った人いる？

(二人挙手。)

○ お話の中にふねの仲間がいくつ出てきましたか。

四つです。

○ 四つ仲間が出てきました。2番のお話の所から船の写真があったでしょう。写真が四つあったでしょう。2番の所から5番のお話の所までね。

(板書 2から5までを□で囲む。)

○ これから、聞くから、わかったら、さっきのように、さっと手を挙げてね。

○ 2番のお話の所は、何のふねが出てきましたか。

きやくせんです。

(板書 きやくせん。)

○ 3番は。

フェリーボートです。

(板書 フェリーボート。)

○ 4番は。

ぎよせんです。

(板書 ぎよせん。)

○ 5番は。

しょうぼうていです。

(板書 しょうぼうてい。)

○ もう少し詳しく写真を見ていきましよう。一番最初開いてごらん。きやくせんです。このふね大きいね。何階建てくらいかな。

五階くらいです。

○ そうね。上にも下にもあるね。教えてみたけど、七階建てくらいかな。みんなの学校は何階建てですか。

四階建てです。

○ みんなの学校四階建てかな。

(言い直して。)

三階建てです。

○ そうするとね、みんなの学校の上に、もう一つ学校があるくらいの大きさなんですね。

○ 長さはどうでしょうか。みんなの学校より長いだろうか。短いだろうか。あなた、どうだろうか。

長いです。

○ とつても長い。みんなの学校の二倍あるの。先生も調べてみたけど、もう一つ学校があるくらい。もつと長いのもあるんだって。

○ 窓がいっぱいあるでしょう。人がたくさん乗っています。何人くらい乗れると思いますか。だいたいいいよ。

七十人

○ だいたいお客さんが千人くらい乗るんですって。働く人は、五百人くらいいるんだって。だから、このふねの中には、千五百人の人がいます。この矢本東小学校は何人ですか。

(何人か挙手。)

○ 一年生でも知っているの。すごい一年生だ。工藤校長先生もうれしいね。

六百人です。

○ そう。東小学校は、六百人なのね。みんなのお友達が全部乗って、もう一回全部乗ってもあまるくらいなのね。

○ このふねどこへいくのでしょうか。

(挙手なし。)

○ 松島湾の方へ行くのかな。はい、あなたは。

分かりません。

○ えらいね。分からない時に、分からないとはつきり言えることは、ものすごく大事なことのね。このふねは、外国へ行くの。みんなは、聞いたことがあるかな。オーストラリアとか。

○ コアラがいるでしょう。中国、パンダがいるでしょう。アメリカとか。ヨーロッパのイギリスとかフランスへ行くんだって。

○ 次のページをめくってごらん下さい。このフェリーボートは、ここから少し北へ行ったところにあるんだけど、知っている人いますか。

(挙手なし。)

○ 行ったことないかな。ここから北へ行くと、気仙沼という所があつて、そこから大島という島へ行く時に、フェリーボートがあるの。乗ったことある人手を挙げてごらん下さい。

(挙手なし。)

○ ここから遠いからね。絵を見て下さい。何が乗っていますか。トラックです。

- 大きなトラックが乗っていますね。このフェリーに乗っているのは、トラックが一台だけでしょうか。
二台です。
- 二台だけかな。
三台です。
- みんな控えめですね。一台しか見えないけど、とってもたくさん乗ることができるのよ。
(へえ、という声上がる。)
- そうしたらね。次のぎよせんを見てもらんなさい。何の仕事をしているの。何をしているの、おじさんは。
魚をとる仕事です。
- 魚をとっているのね。みなさん魚を竿で釣るでしょう。網でとっていますね。魚がどこにいるか、魚がびっくりしないようにそつと手で押さえてご覧なさい。
(どの子も押さえているか確認をする。)
- ここにいます。(写真をおさえて) 魚がとれたら、この網を巻いていきます。だんだん巻いていくと、大きかった網が狭くなります。そして、魚がとれるのですね。一匹、二匹ぐらいの魚じゃないんだね。
- 次のページを開きましょう。これは、しようぼうていですが、これと同じ仕事をする車を知っていますか。
消防車です。
- 消防自動車っていうのは、普通、一本しかホースをつけていないのね。たくさん持っているのもあるけどね。しようぼうていを見てもらんなさい。何本ありますか。
- 五本です。
ということは、消防車の何台分のお仕事ができるということ。
五台分です。
- すごいですね。それでは、黒板を見て下さい。(手が机の上に出がっている子たちが半数いる。) 手を下ろしてもらんなさい。
(さつと手を下ろす。)
- とつてもいい姿勢になりましたね。
- 黒板を見てね。たくさんの人を運ぶふねはどれですか。
きやくせんです。
(板書 きやくせんの上に黄で人)
- まだなかったですか。
フェリーボートです。
(板書 フェリーボートの上に黄で人。)
- フェリーボートがもう一つ運ぶものがあつたでしょう。何。
自動車。
(板書 フェリーボートの上に黄でじ。)
- 魚をとるふねはどれですか。
ぎよせんです。
(板書 きよせんの上に黄でさー。)
- 火事を消すふねは。ここまで来たら分かるね。
しようぼうていです。
(板書 しようぼうていの上に黄で火ー。)
- みんな四つとも役目があつたでしょう。
ここ(1)は、ないので、○。

○ (板書 1の下に○。)

○ ここ(6)は。

(板書 6の下に黄でやくめ。)

(板書 題目いろいろに黄で傍点。)

○ 四つとも、いろいろな仕事をしていたね。だから、いろいろなふねというのですね。

〈手引き〉

○ この中で、みんなの好きなのを一つ勉強するからね。自分が勉強したいなという所に一回だけ手を挙げてくれる。一番多かったところを今日お勉強します。

○ きやくせんが勉強したいなという人。

(挙手なし。)

○ フェリーボート。

(挙手二人。)

○ ぎよせん。

(挙手四人。)

○ しょうぼうてい。

(挙手九人。)

○ 今日は、しょうぼうていのお勉強をしましょう。残ったところは、また、担任の先生とお勉強して下さい。書いてお勉強します。これからいう所を出して下さい。一番最後の所を開けて下さい。全部書くのは長いので、このふねは、という所を、押さえてごらん下さい。そこから、火を消しますという所までをノートに書きます。

(ゆっくり書く所を全部読む。)

○ ノートを開いて下さい。下敷きは、今日書くところへ挟んで、

本は、左側に置いてごらん下さい。左利きの人は、反対だけど、

みんなのノートのマスが大きいんだけど、ゆっくり、濃く、

丁寧な字で書きましょう。それでは、始めて下さい。

(ノートの使い方を机間指導。)

三 よむ

四 かく (板書)

このふねは、

ポンプや

ホースを

つんでいます。

火じがあると、

水やくすりを

かけて、火を

けします。

(板書後、机間指導。)

(ほとんど全員書き終えた。)

○ もう少しの人がいるんだけど、急がせて悪いけれど、そこで手を置いて下さい。

○ マスが大きかったけど、どの人も一生懸命丁寧に、書いていましたね。黙ってよく勉強していました。心がしっかりしていますね。それでは、机の上の物を全部、机の中にサッと片付けましょう。

五 よむ

- よい姿勢で、この（鞭）先を見て下さい。最初は、目で読みます。手を下ろしなさい。
（サツと手を下ろす。）
- そうそう、そうするとよい姿勢になるね。
（指黙読 一回）
- 今度は、しっかり声を出しましょう。
（指音読 一回）
- もう一回読んでみましょう。出だしがよかったよ。
（指音読 一回）
- よかったね。

六 とく

- このふねは、何のふねですか。
しょうぼうていです。
（板書 つんでに黄で傍点）
- つんでとは、どういうことですか。
のせているということです。
（板書 黄で二つに区分して、それぞれに弧線。）
- 二つに分かれていますか、こっち（後の括弧）にしようぼうていのお仕事のことか書いてあります。何をすることが仕事ですか。
火事を消すことです。
（板書 けしに黄で傍点。）

○ 火を消すことが仕事ですね。消す時に何を使いますか。

ホース

○ それは、前の方でしたね。後の方を見て下さい。
水です。

（板書 水を黄色の丸で囲む。）

○ 海ですよ。水は、どこから来るの。
海。

○ 海の水なのね。だから、消防自動車五台分の水でも、いっぺんに出せるのね。

○ 水だけで消えない時、何を使いますか。
くすりです。

（二人の子が同時に答える。）

（板書 くすりを黄色の丸で囲む。）

○ えらいえらい。二人で答えてくれたのね。ありがとう。
薬を使うのは、どういう火事の時かな。

火事が強い時です。
強い時で、火が消えない時です。

○ そうね。油なんか燃えると、薬を使わないと、水をかけても余計燃えてしまうでしょう。

○ 水や薬を使って火事を消すけど、そのために、うまく工夫しているところがあつたでしょう。さっき言ってくれたね。

ポンプやホースです。

（板書 黄でポンプ ホースに傍線。）

○ 火事を消すために、ポンプやホースを積んでいるんですよ。だから、船が火事になつても、港の建物が燃えても大丈夫なん

ですよ。

七よむ

○ もう一回読んで終わりましょう。手は下ろしましょう。

(指音読 一回)

(なかなか大きな声が出ない。)

○ 朝ご飯食べた？まだ、出るでしょう。もう一回読んでみましょう。立つといい声が出るからね。

(指音読 一回)

(立って大きな声で読む。)

○ 夏休みなので、いろいろなふねがあるから、図書館で読んでみて下さい。おもしろいよ。

○ とつてもいいお勉強ができてうれしかったです。立派な一年生でしたね。そのまま、終わりの礼をしましょう。

